

平成29年度 学校評価書

平成30年3月31日
 学校法人山名学園 山名幼稚園長 諸井理恵
 山名幼稚園学校評価委員会

- 幼稚園の教育目標
 - 元気な子 … ①戸外でなかよく遊ぶ子 ②正しい生活習慣を身につける子
 - やさしい子 … ①情緒豊かで思いやりのある子 ②自分や友達を大切にする子
 - 考える子 … ①物事に興味をもち考えたり工夫したりする子 ②最後までやりとげる子
 - ありがとうのいえる子 … ①感謝の気持ちを持てる子 ②ものをたいせつにする子
- 本年度の重点課題 「明るいあいさつのある環境」「がんばる力を引き出す環境」「思いやりの生まれる環境」「祈りと感謝のある環境」心の成長のための環境の充実を目指す。
 「考える力」を引き出す創造的環境づくりに取り組む。物事をやりとげる経験を積み、自己肯定感を高める。

3. 評価項目に対する自己評価及び学校評価

項目		評価点	自己評価結果	評価点	学校評価結果
項目別評価	幼児の姿	A	お友達となわとびや鉄棒に挑戦する等、戸外で自主的に練習する姿に、目標をもって楽しみながら活動する姿が目立つようになった。朝のあいさつや、ありがとうが素直に出る子どもが多い。感謝の心は言葉に出すことが大切だということを体験的に身につけている。年長児が共同作品に取り組む中で、こだわりをもって工夫する力を発揮する子どもが出てきた。	A	上の子どもが下の子どもの面倒を見る縦割り活動があり、子ども同士が育ちあっている様子が見える。明るいあいさつがある。のびのびと園庭で過ごす姿がある。
	幼児への対応	B	子どもたちに理解が生まれるまで、向き合って話を聞き、伝える努力をしている。考える力を育てるために子どもたちへの問いかけを大切に、活動を次の展開につなげる工夫をして子どもたちの興味関心とやる気の継続につなげている。経験の幅を作るような多彩な活動を考え、子どもたちが楽しみに園に通うことにもつながっていると感じる。まだまだ発揮されていない子どもたちの力をどう引き出していか工夫が求められる。	A	先生たちが熱心に一人ひとりと向き合っただけで保育しようと努力する気持ちが感じられる。子どもたちの興味関心を引き出す努力をしている。あきらめずにがんばる力を育てる努力が感じられる。
	保護者への対応	B	保護者から寄せられる疑問点には理解が得られるまで対応しており、職員との関係も目立った問題はなかったが、予定の変更があった場合、保護者が安心できる早めの対応が求められる。流行性の感染症の出停状況など健康面の情報発信を今後強化していくことで家庭での健康管理の意識が高まることになるので強化したい。参観会など、保護者が園に足を運ぶ機会を多く求める声もあり、有志で参加できる行事も試みた。好評だったので今後も検討したい。	A	求められる対応について改善に取り組みより安心を与える保育を心がけていると思う。教育熱心な親の声を拾い上げて活動の中に反映させていると感じる。
	教育内容環境	A	多彩な活動で、子どもたちの興味関心を引き出し、子どもたちが、関心を持ったことをきっかけに次の展開を生み出し、子どもたちが楽しみながら高度なことに挑戦していく流れができつつある。子どもたちが苦手意識のあることにも挑戦できるように家庭と園の連携を大切にしながら取り組んでいる。心の成長の上に言葉がけを大切に、話を落ち着いて聞ける環境づくりを意識している。広い園庭の利点を生かした身体づくりの活動が求められるが、今後より工夫していく課題としたい。	A	新しい時代に合わせた取り組みもなされ、就学前教育も充実している。先生のお便りや連絡帳で、子どもたちの成長も感じ取れる。充実した施設や園庭が活動の幅を生み出している。
	アンケートからの気づき	A	共働き家庭が増えていることもあり、家庭の負担に配慮を求める声が多くみられる。月1回のお弁当作りを負担に感じる保護者が増えていることなど、保護者の日々の暮らしぶりにゆとりがなくなっている様子があるように思われる。園の活動には、おおむね理解と評価はなされているが、今後は、時代に応じた保護者目線に立った配慮を入れつつ、保護者も共に成長できるような園の方針も打ち出していくことが大切であると考えている。	A	保護者が園を信頼している様子が伝わる。保護者の要望は細かにはあるが、園全体の評価は高く保護者からの感謝の言葉が多い。共働き世帯の送り迎えでは、徒歩通園の当番等にも柔軟に対応している。
本年度の総合評価			職員のコマメな情報発信と声かけで、園の様子が保護者にも比較的理解されるようになり、子どもたちの成長を実感している保護者の声を多くいただいている。子どもたちもいきいきと毎日の園生活を過ごす姿が見られ、安心して過ごせる環境が整っていると感じる。行事にはぬくもりのある手作りのものを職員が考え、子どもたちも一緒に準備に取り組むことで一体感が生まれ、保護者もあたたかい目で見守る良い関係が生まれている。就学前教育にも配慮した活動が卒園後に評価を頂いている。職員の研修による意識の向上の努力がなされた結果と感じる。	総合評価	子育て支援を目的とした満3歳児の受け入れ枠を今年度増やしていったが、円滑に園は今までと変わらず運営されている。季節に合わせた活動と、鼓笛活動、運動会、おゆうぎ会、年長児のおぢばがえりなど子どもたちが成長できる行事が充実していると思う。
今後の課題 取り組みの考察			職員間の連携をより強め、全員体制で園全体を考えていく目線の下、3年間の幼児期の成長に有効な、子どもたちが自らが喜んで取り組める活動をひきつづき考えていきたい。評価の高い多彩な活動があるが、行事の忙しさに子どもたちと職員が疲弊してしまうことがないように配慮し、保護者の要望もすべてかなえるのではなく、丁寧な目的説明をもって行事の実施の理解を促すことも大切にしたい。自ら育とうとする意識が高い保護者も多く、講演会や、その他活動への参加窓口も今後、より求められていると感じる。バスの運行や送迎、園への連絡機能を便利にするメール配信サービスなども新年度より取り入れる。今後はウェブサイトで見られる園のお知らせの充実も求められているので考えていきたい。	総合所見	新年度から全館エアコン完備になるなど、近年の気候の変化による環境の配慮も考えられている。送迎バスの到着をお知らせするシステムや、欠席のお知らせも電話だけでなくメールでできるようになるなど保護者に配慮した流れもできつつある。伝統的に続けていることも守りつつ、新しい時代にも対応し努力している。子供にとってどうかという目線を大切に、子どもたちを導いている様子が安心できる。

※評価点の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組んでいるが成果が十分でない D…取り組みが不十分である